

令和7年度 札幌市エイズ対策推進協議会 議事録

日時 令和8年2月9日(月)18:30~19:40

場所 WEST19 2階大会議室

<p>① 開会の辞 (斉藤調整担当 部長)</p>	<p>定刻となりましたので、これより令和7年度札幌市エイズ対策推進協議会を開催いたします。 私は、本日の進行を務めさせていただきます、保健福祉局保健所調整担当部長の斉藤と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。 本日の会議は1時間程度を予定しております。エイズ対策推進協議会の会則に基づき委員の過半数の出席となりますので、開催要件を満たしていることをご報告させていただきます。 会議にあたりまして、先に配付資料の確認をさせていただきます。机上の資料をご確認ください。 表紙、別紙1~別紙10となっております。不備のある方は事務局まで申し出ていただければと思います。大丈夫でしょうか？ それでは開会にあたりまして札幌市保健福祉局医務・保健衛生担当局長の西條よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>② 開会挨拶 (西條医務・保 健衛生担当局 長)</p>	<p>皆さんこんばんは。札幌市保健福祉局医務・保健衛生担当局長の西條でございます。 本日は時節柄大変お忙しい中、今年度の札幌市エイズ対策推進協議会にご出席をいただきましてお礼を申し上げます。 本日開催される札幌市エイズ対策推進協議会の開会にあたりまして一言私から皆様にご挨拶申し上げます。 札幌市エイズ対策推進協議会におかれましては、札幌市におけるエイズの感染予防、及びまん延防止について多方面の委員の皆様にご参加をしていただき、私たちの行うエイズ対策の在り方についてご審議をいただいております。今回は役員の改正があり、新たに2名の方を委員としてお迎えをしているところでございます。本協議会の趣旨をご理解くださり、快く委員をお引き受けくださったことに厚く御礼を申し上げます。 近年、エイズに対する治療薬および治療法の進歩、HIV感染の早期発見、治療の早期開始により、HIVに感染したとしても疾患としてのエイズの発症を防ぐことができるようになってきています。また、治療薬の投与法を工夫することによって、人から人へのHIV感染のリスクを低減させることができるようになってきております。 札幌市といたしましても、HIV感染陽性者が治療を適切に受けることができ、また、人から人への感染リスクを低減させること、さらに、人権が尊重されるようなよりよい社会になるように努めて参りたいと考えております。また、新規HIV感染者を少しでも減少させていきたいと考えております。そのために必要な市民向けの情報提供、検査相談体制などを継続し、さらに充実を図っていきたくと考えております。本日の会議におきましては、委員の皆様方それぞれのお立場からの忌憚のないご意見、ご提言を賜りたく思っております。 結びになりますけれども本日の協議会が実り多いものになりますようお願いいたしまして私からのご挨拶とさせていただきます。 本日はどうかよろしくようお願いいたします。</p>
<p>③ 出席者紹介 (斉藤調整担当 部長)</p>	<p>それでは議事に入ります前に委員のご紹介をさせていただきます。別紙2の委員名簿のご確認をお願いいたします。委員の皆様は任期は2年となっておりますが、初めて顔を合わせる方もいらっしゃると思いますので皆様より自己紹介をお願いしたいと存じます。</p>

(赤木委員)	<p>それでは職員名簿順にお願いしたいと思います。赤木委員から自己紹介をお願いします。</p> <p>北海道新聞くらし報道部で部長をしております赤木でございます。よろしくお願いいたします。</p>
(池田詩子委員)	<p>宮の森レディースクリニックで院長、婦人科医の池田と申します。PrEPなどでHIVの予防に努めております。</p>
(池田博委員)	<p>池田内科の池田と申します。開業医の立場からHIV予防対策を考えて行っております。よろしくお願いいたします。</p>
(遠藤委員)	<p>北海道大学病院でHIV診療をしております遠藤といいます。こちらちょっと古い所属になってますけど、血液内科から、今年度から感染制御の方へ異動しております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
(笠間委員)	<p>札幌市PTA協議会から派遣ということで来ております笠間と申します。札幌市PTA協議会には幼稚園小学校中学校のPTAが参加しておりますので、小、中、幼稚園の保護者の代表ということになるかなと思います。よろしくお願いいたします。</p>
(川崎委員)	<p>一般社団法人札幌青年会議所副理事長の職をお預かりします川崎駿人と申します。1年間どうぞよろしくお願いいたします。</p>
(坂本委員)	<p>はばたき福祉事業団の坂本です。</p>
	<p>はばたき福祉事業団は薬害HIV感染被害患者さんの支援団体です。</p> <p>後ほど札幌市の方からご紹介されますサークルさっぽろという検査場の運営をしております。</p> <p>あと北海道の受託事業で、HIV陽性告知時等の支援で派遣カウンセラー事業を担っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
(佐々木委員)	<p>札幌薬剤師会の佐々木と申します。</p>
	<p>名簿のですね、私の肩書が変わりまして、薬剤部長だったらかっこよかったなと思うのですが、役職が変わりまして今は医療安全管理室で働いております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
(沼田委員)	<p>NPO法人レッドリボンさっぽろの沼田です。</p>
	<p>私たちの会は毎週火曜日の夜の電話相談と陽性者交流会を偶数月に定期的実施しております。</p> <p>予防啓発と陽性者支援両方を行っている団体です。本日は、NPOの立場から参加させていただきます。よろしくお願いいたします。</p>

(藤枝委員)	ラジオ局 Air-G' FM 北海道の藤枝と申します。 名簿の方は編成制作部となっておりますけど、現在 SPC 事業部というところで主にイベントの方を担当しております。 今年度に関しましては、中継等で広報等手伝わさせていただいております。今日もよろしくお願いたします。
(堀口委員)	養護教諭連絡協議会から参りました、札幌市立豊成支援学校の堀口と申します。 よろしくお願いたします。養護教諭をしています。
(堀口委員)	札幌医科大学血液内科の堀口です。HIV 診療を担当しております。よろしくお願いたします。
(満島委員)	ブラストの副代表の満島てる子と申します。後ほど資料の中でも名前が出てくると思うのですが、世界エイズデー札幌実行委員会として HIV/エイズの普及啓発など様々に協力させていただいております。今日はよろしくお願いたします。
(宮島委員)	札幌市養護教諭会から参りました、札幌市立発寒中学校養護教諭の宮島美由紀と申します。札幌養護教諭委員会は札幌市内の幼小中学校、特別支援学校含めてですね、300 名ほどの養護教諭が所属する団体になります。本日は養護教諭の立場から参加させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。
(山内委員)	一般社団法人札幌歯科医師会から出向になりました。医療管理担当の山内と申します。よろしくお願いたします。
(渡部委員)	北海道大学病院の看護師の渡部です。HIV 患者さんの療養支援と道内の HIV の相談窓口として活動しております。よろしくお願いたします。
(斉藤調整担当部長)	皆様ありがとうございました。つづきまして事務局より、自己紹介をさせていただきます。
(西條医務・保健衛生担当局長)	はい、変わりました、札幌市保健所所長でもありますので、札幌市保健所長の西條と申します。よろしくお願いたします。
(斉藤調整担当部長)	改めまして、本年度より HIV の担当となりました保健所調整担当部長の斉藤です。よろしくお願いたします。
(前木感染症担当部長)	札幌市保健所感染症担当部長の前木と申します。よろしくお願いたします。
(畠山感染症総合対策課長)	札幌市保健所感染症総合対策課長の畠山でございます。どうぞよろしくお願いたします。
(古澤感染症医事担当課長)	昨年度までこのエイズ業務を担当させていただいておりました、感染症医事担当課長の古澤です。どうぞよろしくお願いたします。

(宮北保健科学課長)

札幌市衛生研究所保健科学課長の宮北と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(伊達結核対策係長)

感染症総合対策課結核対策係長の伊達と申します。係の名前は結核対策係ですがHIVの担当をしています。よろしくお願いいたします。

(酒井保健師)

同じく結核対策係でエイズ業務を担当しております酒井と申します。よろしくお願いいたします。

(梅澤保健師)

同じく梅澤です。よろしくお願いいたします。

(斉藤調整担当部長)

会長、副会長の選任に入ります。本協議会規則で、会長を委員互選により選出いただくこととしております。また会長が副会長を2名指名することとしております。

前回までは、北海道大学病院の遠藤様に会長職をお願いしおりましたが、事務局案としては引き続き遠藤様にお願いしたいと思っておりますが、皆様、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、これより議事の進行につきましては、遠藤会長にお願いしたいと存じます。遠藤会長、よろしくお願いいたします。

④ 議事進行  
(遠藤会長)

皆さま、改めまして北海道大学病院の遠藤です。

それでは時間も限られておりますので、議事を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

まず、副会長ですけれども、前回までお願いしていただきました札幌薬剤師会の佐々木委員と札幌医科大学附属病院の堀口委員にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは早速議事の方に行きたいと思っております。本日の議事につきましては、会議次第の通り報告事項が2題と協議事項が1題でございます。終了予定時刻は19時半の予定となっておりますのでよろしくお願いいたします。

まず事務局の方から報告事項2題と、協議事項1題についてご説明いただきます。議題ごとにご質問等をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

⑤ 報告事項説明

(伊達結核対策係長)

・報告事項1

はい。では、初めに札幌市のエイズ、梅毒の現状についてご説明いたします。お手元の資料の別紙3の方をご覧くださいませでしょうか。

まずI-1年次推移です。HIV感染者、エイズ患者の届出状況です。届出件数の年次推移ですけれども、令和7年はHIV感染者が19件、エイズ患者が3件の計22件でした。前年の23件からは1件減少となっております。届出に占めるエイズ患者の割合、いわゆるいきなりエイズの割合は、令和7年は13.6%となりまして、昨年の17.4%を下回っております。

次にI-2性別年次推移です。令和7年は男性が21件、女性が1件で、これまで同様、男性が多くを占めております。

次にI-3、感染経路別年次推移です。グラフの水色の部分、同性間性的接触によるものが18件で全体の8割を占めております。

続きまして、I-4年齢階級別累計です。傾向としましてはHIV感染者は20代から40代に多く、エイズ患者は30代から40代に多くなっています。年代が上がるにつれて、エイズ患者の割合が多い状況というふうになっております。

次にI-5、推定感染地域別年次推移です。こちらの方は日本国内が多い状況に変わりはありません。

続きまして、Ⅱの札幌市の梅毒患者の届出状況について説明させていただきます。

Ⅱ-1年次推移です。梅毒の届出件数は、令和7年の届け出は319件でした。過去最高でありました令和5年の470件から減少しました。また先天梅毒は1件でした。

次にⅡ-2、性別年次推移です。令和7年は男性が133件、女性が186件で、ほぼ同数となっております。全体の届出数は令和6年より減少していますが、女性の届け出数は増加しています。

次にⅡ-3、感染経路別年次推移です。令和6年は男女ともに異性間性的接触が7割以上を占めております。

次にⅡ-4、性別年齢階級別累計です。女性は20代に多く、男性は20代から50代が多い状況となっております。

次にⅡ-5、推定感染地域別年次推移です。日本国内が多い状況に変わりはありません。

Ⅱ-6です。HIV感染症合併の有無です。梅毒発生届が提出された方のうち、HIV感染症の検査実施割合は、令和7年は総数319件のうち、 $130+8=138$ 件を占める割合が43%でした。令和元年から7年の累計のHIV感染症検査実施割合は $33+2=35\%$ でした。令和7年はHIV感染症を合併していた人は8件でした。

次に、札幌市のHIV相談検査状況について説明をいたします。

まずⅢ-1 HIV相談検査体制というところをご覧ください。まず相談検査の体制についてですが、相談は各区保健センターにエイズ専用相談電話を設けて対応している他、札幌市HIV検査相談センターであります、サークルさっぽろさんでも検査時に相談対応をいただいております。サークルさっぽろさんの運営につきましては、札幌市から社会福祉法人はばたき福祉事業団さんに委託をしております。

次に検査体制ですが、札幌市直営の検査といたしましては、平日日中、平日夜間、日曜日に実施をしております。この他、LGBT向けの検査も実施しております。

委託検査としては毎週土曜日にはばたき福祉事業団に委託し、サークルさっぽろでHIV検査を実施しております。

令和7年度からはサークルさっぽろにおきましても、梅毒検査をあわせて実施しております。

続いてⅢ-2 年度別エイズ相談件数です。

令和7年度は12月までの集計ではありますが、相談件数は184件となります。

次にⅢ-3 年度別HIV検査件数です。

表の青色が平日検査、赤色が夜間検査、緑が休日検査、オレンジ色が土曜日のサークルさっぽろの検査となっております。

令和7年度は12月時点で、サークルさっぽろは梅毒検査追加の影響か令和6年度よりも増加の見込み、平日検査と休日検査は昨年より減少の見込みです。要因としては明らかではないのですが、民間の検査機関で受検者が増加している可能性があるのではと推測しているところです。

なお陽性者数につきましては、令和7年度は直営検査で3名でした。

続いて、Ⅲ-4年度別梅毒検査件数です。

こちらは、平成30年度から開始しました、梅毒検査の状況についてです。こちらは直営のHIV検査に付随して梅毒検査を実施した件数を表しています。

令和7年度は12月までの集計ですけれども、HIV検査を受けた方1,053名のうちの93.6%となる、986名が梅毒検査も一緒に受けております。この986名のうち陽性になった方は27名、サークルさっぽろでは10名でした。

札幌市のエイズ、梅毒の現状についての報告は以上です。

次にⅢ-5の夜間休日エイズ検査のアンケート結果の方をご覧ください。

ださい。令和7年4月から令和7年12月までの夜間エイズ検査と休日エイズ検査を受けた方のアンケート結果についてまとめたものです。

年齢は20歳代から50歳代以上まで幅広く受けていただいております。サークルさっぽろは20歳代が38%と他の検査会場よりも若年層が多くなっています。

男女別の割合についてはどの検査会場も男性が多いですが、サークルさっぽろと平日の検査では女性の割合が3割程度と夜間・休日よりも女性の受検者が多くなっています。

受検歴ははじめての方が最も多いですが、昨年度から今年度にかけてははじめての割合は48%から37%に減少しています。

検査を知ったきっかけは、札幌市などのホームページが最も多く、続いて広報さっぽろが多くなっています。今年度はSNSの項目をサイト毎に分けアンケートを取っています。SNSの中ではマッチングアプリがやや多い傾向にあります。その他の回答としては、チャットGPT、Google検索、Instagram、保健所窓口での紹介などがありました。以上となります。

(遠藤会長)

はい、ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、何かご質問はございますでしょうか。

(池田博委員)

詳しい説明ありがとうございました。Ⅱ-5の推定感染地域別のところですが、海外で感染して札幌に来られた方が2名いて、その2名の方が母国が外国かどうか、東南アジアの方から働きにきている方も多いと聞くのですが、この2名の方について外国人かということとはわからないのでしょうか。

(斉藤調整担当  
部長)

どこで感染したかというところを調査したデータとなっております。この方が外国人かというところは不確定ではありますが、どこでかというところ、2名のうち1名がジンバブエ、もう1名が南アフリカとなっております。

(遠藤会長)

こちらは発生届をもとに作られていますよね。発生届に国籍の記載があるように思うのですが。

(斉藤調整担当  
部長)

調べましてご回答させていただければと思いますので、後日回答させていただければと思います。

(遠藤会長)

こちらは、どこで感染したかという情報をグラフにさせていただいていますけれども、国籍についても、実は、北海道大学病院、この2年間で外国人率が2割くらいなんです。かなり多い、ということもありまして、私も日本人と外国人の比率も知りたいなというふうに思いましたので、もし、データが取ればお願いしたいと思います。

(遠藤会長)

私の方から一つよろしいでしょうか。Ⅱ-6のこの梅毒の方がHIV感染かどうかというグラフがあると思うのですが、これは徐々に不明の割合は減ってきているのかなと思うので梅毒を診たらHIVも検査するということが少しずつは定着しているのかと思う一方で、まだ半分以上の人は梅毒を診てもHIVの検査をしていないという理解でよろしかったでしょうか。

これは、梅毒を報告した後に、HIVの検査をとっているという可能性もあるということでしょうか。

これは梅毒の発生届の際にHIV合併の有り無しをチェックしているというものでしょうか。

(齊藤調整担当部長)	そうですね。梅毒の検査を実施した後ではまだ、HIVの結果が出ていないというものも含まれていると思います。
(遠藤会長)	なかなか、2回採血するというのも抵抗があると思うので、梅毒を疑った時には、梅毒検査の採血をすると思うのですが、その時点でHIVの検査もできるということがあまり浸透していないと思うので、性感染症疑いの段階で保険診療でHIV感染症の抗体検査をできますので梅毒疑いと病名を付けて、本人の同意が得られればHIV検査を実施していただくと件数が増えるのかなと。 おそらく、梅毒疑いの段階でHIVの検査を実施できるということを知っている医療従事者がかなり少ないのではないかと思いますので、保険の手引きには記載がありますので、なんらかの形で周知いただけると、もう少し増えるのではないかなと思います。
(齊藤調整担当部長)	ありがとうございます。 今後の医師会等との懇談会の中で、そういったことも触れていければと思っております。
(遠藤会長)	その他いかがでしょうか。
(坂本委員)	Ⅲ-3で、年度別のHIV検査件数のところですが、平日と休日の検査数がかなり減っていて、民間のメンズクリニックとかも増えてきてますので自由診療のところにも流れているのではないかなという見解がありましたが、サークルさっぽろでも予約枠は広がっていますが、コロナ前は8割くらい予約が入っていたところ、ここ最近では6割くらいしか予約が入っていないという状況があります。 札幌市でも予約枠は確保されていて、どれくらいの割合で予約が入っていたのか、サークルさっぽろと同じくらいの割合でしょうか。
(酒井保健師)	平日と夜間・休日で変わってきますが、平日に関しては、区保健センターで直接申し込みをしている関係で保健所で予約率までの把握はできていない状況です。 休日に関しては予約から10名ほどの未来所という状況ですので、50名予約が入り40名の来所ですので、約8割くらいかと思われます。
(遠藤会長)	よろしいでしょうか。 その他ご質問ございますでしょうか。
(渡部委員)	Ⅲ-3の検査数のところですが、令和7年が平日検査数が減っているが、感染報告数としては、あまり変わらないということは、保健所の検査ではないところで陽性が分かっているかと思うのですが、 先ほど、その民間の検査機関というところもあったので、実際の発生届の報告がそういった民間の検査機関からのものが多いのでしょうか。
(梅澤保健師)	発生届での出ている医療機関としては、北大病院、札幌医科大学附属病院などの拠点病院から出ているものが多い状況です。 おそらく民間の検査機関から拠点病院へ紹介状が出ているのではないかと推測しているところです。
(遠藤会長)	おそらく民間の方では確認検査もやっていないところでは、確認検査から拠点病院で行っているため、拠点病院から発生届が出ることになりそうですし、ただ、確認検査をやっている医療機関もありますので、そういったところは各病院から発生届がでるという流れになるかと思っております。

(渡部委員)	こちらで受けた患者様は、他の医療機関からが多く民間の検査機関というのはあまりないので、検査の数の減り方と陽性者の出方ということで民間の検査機関がどこまでカバーしているのかというのは疑問かなと思いました。
(遠藤会長)	発生届だけではおえないところをどうみていくかという。
(斉藤調整担当部長)	私どもとしましても、この会を行うにあたって、遠藤先生とも打ち合わせをさせていただいた際に、わりと多く紹介状が出ているような医療機関という情報もいただいておりますので、札幌市としましても、多分、検査を実施しているということでは、HIV対策をしっかりと行いたいというような医療機関かと思っておりますので、今後、なんらかの形で連携をとったりですとか、情報共有ができる方法があればと思い、検討しているところです。
(遠藤会長)	ありがとうございます。おそらく、民間であっても、郵送検査も増えてきているという可能性もありますので、そういった他の検査でカバーされているのであれば、全体での検査件数が足りていればよろしいかと思えます。 他いかがでしょうか。よろしければ令和7年度の札幌市エイズ予防対策実施状況について事務局の方からご報告をお願いいたします。
⑥ 報告事項説明 (伊達結核対策係長) ・報告事項2	令和7年度の札幌市エイズ予防対策実施状況についてご報告いたします。 [別紙4]をご覧ください。 今年度新たに行ったものについて黄色いマーカーを引いております。普及啓発事業ですが、市民全般を対象としたものと、個別施策層を対象としたものを実施しております。 新たな取り組みとして本協議会委員でもあります、Air-G 藤枝様にご協力をいただき、ラジオ番組作成を実施しました。また、コンサドーレ札幌最終戦にブース出展を行い、市民全般向けの普及啓発を行いました。 そのほか、札幌市公式 Instagram でサークルさっぽろの検査会場の紹介動画を掲載しました。 また、昨年度に引き続き世界エイズデー札幌実行委員会へ委託し、ラジオ番組にご出演いただき、世界エイズデーに合わせて HIV について周知していただきました。 若年層向け施策のうち、新たな取り組みとして、市立高校8校へエイズ普及啓発の動画 QR コードを掲載したリーフレットを配布しております。 また、「学生向けエイズ・性感染症出張講座」は昨年度より引き続き実施し、今年度は大学2校で実施しました。 MSM 向け施策では、LGBT 向けマッチングアプリに検査のバナー広告を掲載しました。 先ほどの Air-G のラジオ番組の中で LGBT 検査を合わせて周知いたしました。実際に来られた方の検査アンケートではラジオ番組を聞いて来所されたと記載された方がいらっしゃいました。 医療機関との連携については、昨年度に引き続き札幌市医師会と協働し「HIV・梅毒に関する研修会」を2/24に行います。今年度は、協議会委員の池田詩子先生にご講演をいただく予定となっております。 今年度は新たに NGO の皆様と関係性を深め、連携を強化して普及啓発に取り組めるよう、「エイズ予防普及啓発に関する意見交換会」を開催いたしました。 今年度のご意見をもとに次年度も継続して NGO 関係団体と普及啓発を検討していきたいと考えております。

	<p>裏面をご覧くださいまして、相談・検査事業等についてでございます。</p> <p>今年度は記載のとおり実施いたしました。</p> <p>先ほどお伝えした通りですが、今年度より、サークルさっぽろの検査会においても梅毒検査を開始いたしました。</p> <p>令和7年度札幌市エイズ予防対策実施状況の報告については以上です。</p>
(遠藤会長)	<p>はいありがとうございました。</p> <p>こちらにつきまして、何かご質問ありますでしょうか？</p> <p>相談検査事業は、黄色マーカーのところで、サークルさっぽろの梅毒検査追加というところなのですが、それ以外の検査については、件数なども昨年度と同じということでしょうか。</p>
(伊達結核対策係長)	<p>同じです。</p>
(遠藤会長)	<p>そうすると、実際の検査件数が減っているというところでしたが、空きがだいぶできてしまっている状況でしょうか。</p>
(伊達結核対策係長)	<p>空きが出ている状況となっております。</p>
(遠藤会長)	<p>その他、いかがでしょうか？</p> <p>いろいろと新しい取り組みも沢山されていて良いと思うのですが、難しいと思うのですが、検証というのは何か、先ほど、ラジオの方はアンケートで、ラジオを聞いて検査を受けたという記載がある等、そういったところである程度効果が分かるかと思うのですが、その他に関しては評価法とかはあるのでしょうか？</p>
(梅澤保健師)	<p>実際にそれが評価につながるかというところは難しいところではありますが、札幌市広報課のアカウントに掲載したインスタグラムについては、再生回数として8900回ほどの回数が見られております。札幌市民のフォロワーも増えているアカウントですので市民向けというところでは周知できているかと思われまます。</p>
(酒井保健師)	<p>高校生向けにリーフレットを配布しまして、配布前後の「レッドリボンスタディ動画」の再生数を調べてみましたところ、配布した月の前月の約2.5倍の再生数が見られておりました。11月に配布し、11月の再生回数が多くなっていたことを確認しております。</p>
(遠藤会長)	<p>はい、ありがとうございます。非常に良い取り組みかと思いますので、ぜひ続けていただきたいと思えます。他いかがでしょうか。</p>
(藤枝委員)	<p>検証の部分につながるのですが、別紙3のⅢ-7に検査を知ったきっかけでかなり細かく、SNSでこれくらいという数値がでていたかと思うのですが、これがどれくらいの年代の方というデータも取られてますでしょうか。</p>
(梅澤保健師)	<p>アンケートの取り方としましては、年齢と「知ったきっかけ」を合わせて聞き取りを行っているため、年齢別で数値を出すことも可能です。現時点では数値を取っていないため、すぐにお答えすることが出来ず申し訳ございません。</p>
(藤枝委員)	<p>おそらく若年層へのアプローチというのが課題になってくると思うので、そのようなデータがあれば共有いただくと有効かと思</p>

います。

(遠藤会長)

非常に貴重な意見だったかと思えますけれども、年齢によって、例えば、50歳以上であるとエイズ発症率が非常に高いというのもあり、なかなか検査を受ける機会がないうちに発症してしまうという状況だと思えますので、そういった各年代に合わせた検査、普及啓発を考えていく必要があるかと思えます。  
他にいかがでしょうか？

(坂本委員)

ここに記載はないのですが、今年度、北海道新聞社の方にご協力いただいて、サークルさっぽろ取材していただきました。  
NGOとの連携というところでは、参加者でどのようにしたら検査が増えるだろうかと話し合いをした際に、HIVの露出を増やしていかないと自分事としてとらえてもらえないといった意見もあり、いろいろなところで目にすることも大事なかなと思います。以前、この協議会をオンラインで実施した際に新聞に掲載されたので、PrEPでも他の内容でもいいので、HIVというキーワードを出していくことが非常に大事なかなと思いました。

(遠藤会長)

はい、札幌市の方から何かご意見ありますでしょうか

(斉藤調整担当  
部長)

ご意見ありがとうございます。先ほど申し上げた通り、私たちもできる限り色々なところで、新たな取り組みもさせていただいておりますが、ここにもAir-G'さんですとか北海道新聞社さんですとか学校さんですとか、いろいろなところがあるので、ぜひ、ご協力をいただきながら普及啓発に努めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(遠藤会長)

他いかがでしょうか、よろしいでしょうか。  
それでは、続きまして令和8年度の札幌市エイズ予防対策実施計画について、事務局の方からご説明お願いいたします。

(伊達結核対策  
係長)

〔別紙5〕をご覧ください。  
令和8年度につきましても、関係団体の皆様と協働して普及啓発を行っていききたいと思えます。  
委員の皆様のご貴重なご意見等をいただきながら行っていききたいと思えますので引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。  
別紙5の方で黄色マーカーを付けているところが令和7年度からの変更点となります。  
市立高校へのリーフレットの配布ですが、来年度からは1年生への配布としたいと思っております。理由としましては、1年生の時に保健体育でのエイズに関する授業を実施することが多いと聞いておりますので、それと合わせて配布できれば良いかと思っております。検査事業につきましては、ご覧いただいておりますとおり、休日検査の定員について今年度の96名から80名へ変更いたします。理由としましては、郵送検査を試行的に実施予定であり、その件数と調整するため定員を減らすこととしました。  
他ですね、資料への記載はないのですが、国の方で、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針がありまして、それが、昨年11月に改正となりました。これに伴いまして私どもの札幌市エイズ予防対策基本方針につきましても令和8年度中に改正を予定しておりますので、ここでお知らせをさせていただきます。計画案につきまして、事務局からの説明は以上でございます。

(遠藤会長)

はい、ありがとうございます。それではこの計画につきまして、何かご質問ございますでしょうか。

(満島委員)

質問を兼ねて意見のような形になってしまうのですが、先ほどからまず、HIV及びエイズに関する検査件数というのがなかなか伸びないということと、それを解消していくためにHIVに関する露出度を上げていかなければならないというお話があったと思うんですけども、個人的に思っているのが、梅毒が広がっているなかで、HIVと梅毒と一緒に様々な啓発をしていく必要があるかなというように思っているところなんですけど、例えば今年の世界エイズデー予防啓発の大型ビジョンの放映の方ですとか、私のほうでモデルをやらさせていただいていると思うんですけども、やはり、エイズデーなのでHIVというところがメインにはなるのですが、HIVに関するものというところなんですけど、レッドリボンスタディの方にも動画に出させていただいているんですけども、内容がHIVに焦点を当てたものになっているかなというふうに思うんです。

HIV・梅毒の郵送検査ということで、ここが合わせての形も始まって、この二つを一つのものとして可視化していく必要がある中で、エイズデーにあたって梅毒と一緒にPRをしていくのであるとか、レッドリボンスタディの内容に関して梅毒に関する内容を盛り込むとか、郵送検査のPRにもHIV・梅毒の形で内容を刷新していくとか合わせてもっと多くの人へリーチするようにしていくですとか、何か札幌市の方でこういうことをしたいと考えていることがありましたらぜひ教えていただきたいなと思います。

(斉藤調整担当部長)

まだ具体的などころということではないのですが、今、満島様からいただいたようにすごく、梅毒からHIVというところが同じ性感感染症ということで繋がっているものですから、今言っていたご意見をそれぞれの中でどう取り込めるかというところを検討させていただきたいなというように思っております。

もちろん、HIV 郵送検査のところでも梅毒を合わせた検査ということを兼ね備えておりますので、そういったところでは、強く啓発をしていきたいと思っております。

(満島委員)

必ずしも2者(HIV・梅毒)がセットにならないといけないということではないんですけども、例えばこれを機にHIVに関するHIVの啓発の仕方を刷新していくとか、今PrEPに関するキャンペーンを札幌市の中で始まっているわけなので、そうした形でのコンビネーションであるとか、よりHIVに関する啓発自体をもっと刷新されていくべきなのではないかと思っております。以上です。ありがとうございます。

(遠藤会長)

ありがとうございます。

(池田博副会長)

質問というより要望に近いのですが、坂本委員からもお話がありましたけど、札幌市民もそうですが、全体でPrEPを知らない方が非常に多く、医療関係者の方でもPrEPってなんだと結構言われていて、

1錠ツルバダ等、HIVのお薬を1錠飲むことでHIVを予防することができるということがエビデンスを含めて出てますので、そこを普及啓発事業の中に入れていただければと思っております。

(遠藤会長)

札幌市の方からも一言お願いします。

(齊藤調整担当部長)	今、ホームページの方に、PrEP キャンペーンのリンクを札幌市のホームページに掲載していることと、今年度の実施にありましたが、2/24に開催される医師会の講演会の中で池田詩子先生の方からPrEPのお話をさせていただくというようなことで啓発をしていきたいと考えているところです。
(遠藤会長)	この、チラシがありますけれども、これは2026年3月までというキャンペーンなんです、これが終わってしまったあとは、どうなるのでしょうか。
(池田博委員)	金額が決定していないので、この先のことがわからないのですが、その後も続く可能性が高いのではと思っています。
(遠藤会長)	普通に行うとかなり高額なものになってしまうので、こういったものが続くといいかと思えます。
(堀口副会長)	一点お伺いしたかったのですが、医療機関との連携というところで、性感染症を診療する医療機関向け情報提供と書いてあるのですが、具体的にどこにどのような、何をどのように情報提供をするのか教えていただいてもよろしいでしょうか。
(梅澤保健師)	昨年度より、医療機関向けに梅毒や性感染症と合わせてHIVの検査をしてくださいというご案内をホームページに掲載しております。令和8年度につきましても、なんらかの形で周知していきたいと考えております。先ほども、医療機関が梅毒の検査と合わせてHIVの検査を実施できるということを知らないというところもございましたので、継続してそちらを周知していきたいと考えております。
(堀口副会長)	ありがとうございます。先ほど、遠藤先生の方からもありましたけれども梅毒の検査の際にHIVも一緒に検査をできるという情報ですが、そういうのを見るのは、特に泌尿器科とか皮膚科とか内科系ですかね。そういったところに広く周知しないとなかなか広まらないかと思えますのでご検討お願いいたします。
(遠藤会長)	一点確認ですけれども、ホームページ以外もリーフレットを配っているのでしょうか。
(梅澤保健師)	今年度につきましては、ホームページでの周知のみです。 (令和6年度に札医通信に啓発記事を掲載)
(遠藤会長)	ホームページだと興味がある方しか入ってこない、なかなか、HIV検査へと進まない方は普段意識をされていない方だと思いますので、積極的に配ったりということがないと、変わっていかないかと思いました。
(佐々木副会長)	昨年や一昨年のことは覚えていないのですが、令和8年度の案のところで職員研修②の、HIV・エイズ基礎研修会への参加とあり、黄色マーカーではないのは、時々やっているということなんでしょうか。
(梅澤保健師)	毎年行っております。
(佐々木副会長)	令和7年度のところに記載はないが。
(梅澤保健師)	令和7年度の記載が抜けておりました。毎年実施しております。
(佐々木副会長)	担当者向け等記載がないが、どの範囲の職員が対象となっている

<p>長) (梅澤保健師)</p>	<p>のでしょうか。 ①のHIV検査従事者研修というものは、平日の検査を実施している区の職員向けに保健所が主体となって行っております。 ②のHIVエイズ基礎研修会への参加というのは、エイズ予防財団が実施しているものに、保健所のエイズ担当職員や医師職が参加しているというようなかたちになります。</p>
<p>(佐々木副会長)</p>	<p>なんでこのようなことを聞いたかという、普及啓発の取り組みを行っている中で、札幌市の職員にそのような機会があるのであれば、門戸を広げて、なかなか受けますという方は少ないかもしれませんが、一人でも二人でも、いつ担当になるかわからないということであれば、外ばかりではなく、内側の方から働きかけていくのも必要ではと思います。</p>
<p>(満島委員)</p>	<p>先ほどの堀口委員の質問と被ってしまうかもしれないのですが、「性風俗産業従事者向けの情報提供」というのはどのようなことをおこなっているのでしょうか。PrEPについてですとか、性風俗産業の中でも様々なセクシャリティの人がいるんですけども、どのセクシャリティにおいても話題になることが多いかと思っていて、それこそ、検査を増やしていく中でも大切になってくる層なのかなと思われまますがいかがでしょうか。</p>
<p>(梅澤保健師)</p>	<p>通常、特殊浴場施設として登録のある施設にリーフレット等を送付しております。今年度からはばたき福祉事業団さん、レッドリボンさっぽろさんと一緒に行いまして、試供品、PrEPのリーフレットですとか、サークルさっぽろさんの検査の案内ですとか入れさせていただいたところで、実際に、サークルさんの方に、それを見てこられたということで、坂本さんからお願いします。</p>
<p>(坂本委員)</p>	<p>初めて今年度より札幌市さんと一緒に行って、セックスワーカーさんのシンボルマークが赤い傘ということで、サークルのカードではない赤い傘のカードを配らせていただいたところ、相談の中で、「実は私、セックスワーカーなんです」とのお話があり、お店のオーナーに勧められてというような声をきいたので、これはずっと継続していかなければいけないことだと思います。</p>
<p>(満島委員)</p>	<p>大切な手紙だと思いましたが、なかなか登録事業者のみとなってしまうのでどのように広げていくか難しいところかと思うのですが、ぜひ継続して新たな啓発ができればと思います。</p>
<p>(遠藤会長)</p>	<p>私の方からも一つよろしいでしょうか。別紙にあります予防指針の改定についてですけれども、改定の主なポイントとして、ひとつ検査、相談対策の強化については、今沢山お話もいただいたのですが、もう一つ大きな改正のポイントとしてHIV/エイズ対策における基本的人権の更なる尊重ということで、差別・偏見をなくすための取り組みが非常に重要だということが今回、かなりクローズアップされているのですけれども、差別・偏見がなくなるともう少し検査も受けやすくなるのではないかとということもありますので、決して、差別偏見と予防は切り離せないものだと思います。 今回の令和8年度の実施計画の中で、人権の尊重というような部分にかかわる何か計画のようなものはありますでしょうか。 差別偏見の解消のために行政として何か行う活動というところをお伺いしたいのですが。</p>
<p>(斉藤調整担当部長)</p>	<p>まだ、予防指針の方を指針の改正に合わせどのように変更していくかということ具体的に話していないところではありますが、具体的などころはまだこれからという形となりますが、人権の部分</p>

が大切であると言われておりますので、令和8年度の普及啓発の中に取り込んでいくようにしていきたいと考えております。

(遠藤会長)

ぜひお願いしたいと思います。「検査しましょう」だけではなく、「感染させないようにすることができる」ですとか、「感染してしまったとしても適切な治療をすることで相手にうつすことはないです」といったことも含めてお話することが広い意味では差別偏見が減っていく方向につながるのではと思いますので、「検査をしましょう」以外のことも、こういった色々な取り組みがなされておりますので、そういった内容も含めていただきたいと思います。その他いかがでしょうか。

(沼田委員)

レッドリボンさっぽろの沼田です。今の遠藤先生のお話につながるのですが、私たちは、大学祭などいろいろなイベントでブース出展をしているのですが、参加されている方々がこのU=UとかPrEPとか他にもliving togetherだったりとかいろいろな言葉をどれくらい知っているかという、シールを貼ってもらうというような調査をした際に、「このイベントに参加して初めて知った」という方が多かったです。

この領域で活動していると当たり前な感じにはなっているのですが、実際それが本当に市民・住民の方々が知っているか、リアルな回答だと思っております。そういった正しい知識の普及啓発は、行っていかなければならないかなと思うので、そのような内容も盛り込んだらよいかというのがひとつと、

毎年、宣伝のようになってしまうのですが、人権の部分でいうと、私たちの会はHIV陽性当事者が、実際の生活等、リアルを伝えるという事業もしております。医療従事者とか福祉系の施設等に陽性者自身が出向き、基礎知識から実際の対応等を啓発も含めてしていくような事業にしておりますので、ぜひ、何かございましたらご依頼いただければと思います。そういった活動もしておりますので、委員の皆様からも自分たちの団体ですとか施設でそういったものがありましたらお問い合わせいただけたらと思います。

(遠藤会長)

やはり今の若い方というのは、昔のエイズパニックとかを知らない世代がほとんどだと思うので、そういった意味では差別・偏見を持っているのでは、ある程度上の世代だと思いますので、我々、毎回言いますがけれども、医療機関が本当に差別・偏見がひどくてなかなか、医療機関を受診しようとしてもHIVがあるだけで断られるということがいまだに頻回に起きておまして、今回の予防指針の改定には「診療やサービス提供等の拒否、消極的になること等についても差別・偏見にあたる」ということが明記されておりますので、一般市民だけではなく医療機関に対しても行政からの言葉は非常に響くと思いますので、ぜひ何か取り組みをしていただけると、ありがたいと思います。

(斉藤調整担当  
部長)

貴重なご意見、皆さまどうもありがとうございました。改定を受けてというところもありますが、昨年度もU=Uの地下鉄中づり広告の掲出なども取り組んでいるところでもあります。

そういったところも、皆さまのご意見をいただいて内容もバージョンアップさせていきたいと思っております。札幌市は大変予算も厳しいので難しいところはあるかと思っておりますけれども、これだけ多くの皆様に関心を持ってこの会での貴重な意見を出していただいて、こんなに活発な意見のある協議会というのはなかなかないかなと思っております。皆さま方、当事者様と一緒に力を貸していただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

<p>(遠藤会長)</p>	<p>はい、ありがとうございました。他には何かございますでしょうか。よろしければ、皆さまへお諮りしたいと思っておりますけれども、この令和8年のエイズ予防対策実施計画につきまして、承認ということではよろしかったでしょうか。(異議なし)</p> <p>はい、異議がないということではありがとうございます。</p> <p>他に全体を通して何かございますでしょうか。それでは本日の議事を終了したいと思います。</p> <p>この会はいろいろな職種の集まる非常に貴重な会として、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。ぜひ、委員の皆様には所属される職場や団体等におきまして、積極的なエイズのまん延防止に向けた継続的な活動をお願いしたいと思います。</p> <p>それではここからの進行は事務局へお返ししたいと思います。</p>
<p>⑦ 議事終了 (齊藤調整担当部長)</p>	<p>遠藤会長、議事の進行どうもありがとうございました。委員の皆様におかれましても貴重なご意見、ご審議をありがとうございました。では、閉会にあたりまして、札幌市保健福祉局保健所感染症担当部長の前木よりご挨拶を申し上げたいと思います。</p>
<p>⑧ 閉会挨拶 (前木感染症担当部長)</p>	<p>感染症担当部長の前木でございます。</p> <p>本日はお忙しい中お集まりいただき、また、活発にご議論いただき、ありがとうございました。</p> <p>本日の議論にありました郵送検査については、今年度、エイズ検査の受検者にアンケートを行うなど、次年度からの実施にむけて準備を進めてきたところでございます。</p> <p>また、梅毒については、今年はまだ1か月経ったところですが、札幌市の報告数をみますと、過去2年間と同程度で患者さんの発生数が報告されておりますので、今年も梅毒対策を継続することは重要と認識しております。</p> <p>今年度、次年度以降も、本日お集まりいただいた皆様と力を合わせて、性感染症対策に取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続きお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>⑨ 閉会 (齊藤調整担当部長)</p>	<p>それでは、協議会は終了となりますが、次回の協議会につきましては来年の同時期2月頃の開催を予定しております。また引き続きご協力いただければと思います。令和8年度につきましても、本市のエイズ対策にお力添えを賜りますよう、お願いを申し上げます。本日の札幌市エイズ対策推進協議会を終了させていただきます。本日はご出席いただきまして誠にありがとうございました。</p>